

(仕事は弁当・牛抱え・最期)

ユーチーは、タルチーより力が強いぐらいの人だったですね。で、次男だが、怠け者ですね。その、仕事はなかなかやらんでね。そしたら、うちから芋を持って行くんですよ。だから、この方言ではですね、やっぱ人間ちゅうのは食わんと働けないですよ。人間はね。だからその、これですね、この方言では、ムンヌシゴトヲスルちゅうことですね。ムンヌシゴトヲスルということはですね、標準語に直せば、御飯を食べて、食べれるのが力があつて仕事ができるちゅうことだからね。

それを聞いて、そのユーチーという人は、芋はバイスケ(もっこ)にいっぱいずつ持つて行つてさ。『食事の仕事をする』ちゅうことを言うておるもんだからね。その芋をですね、そのバイスケに入れて、あれに入れて向こうに下げたおいてさ。自分は寝てさ。仕事をやらんで。寝たらしいですね。もう全然、兄貴が言

うことも聞かない。

また、牛を持たしてですね、牛はもう洗うてこうして来たらですね、どつか捕まえてですね、脚を捕まえて、牛の。どぶにそれ突っ込んで。したから後はもうこれにやられるということですね。タルチーが。それが寝ているところをですね、弓ですね、いっぺん弓で放ちよつたらしいですね。

「珍しいね。昼寝している」つて。その弓の矢を取つて見たらですね、自分の兄貴のもですね。タルチーの。それで死んだらしいですね。ユーチーはね。

字米須 仲宗根善道

類話

字宇江城 神谷ハル

字小波蔵 奥間ヨシ

字福地 殿内三吉